

## 事例2 遊びや学びのプロセス(小学校) 生活科「きせつとなかよし はる なつ」

幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)との関連  
【協同性】【思考力の芽生え】【自然とのかかわり・生命尊重】

実際の学習活動は①②③④が一体的に行われたり、  
順序が変わったりすることがあります。

別紙

### この学習活動につながる幼児期の遊びや経験

○砂場や土の山での遊び(感触を楽しむ。型抜きをする。団子をつくる。山や川をつくる。といなどの道具を使って遊ぶ。など)を通して、砂・土・水などに興味関心を持ち、友達と一緒に考えたり、試したり、工夫したりする。

### ①思いや願いをもつ

水たまりを踏むと、水が茶色にごるよ。  
土が柔らかくて気持ちがいいね。裸足で踏んでみたいな！園でやったどろんこ遊びをまたしたい！

- ・園での経験を想起し、泥の様子や感触から「どろんこ遊びをしたい」という思いを引き出すため、雨の日に校庭探検をする。
- ・雨の日に校庭探検することについては、校内で周知しておく。探検ができない場合は、砂場遊びの絵本などを読む。



### ②活動や体験をする

何をつくらうかな？  
ケーキをつくらう！山をつくらう！  
園でつくった泥団子をもう一度つくらう！

- ・場所や道具(スコップやバケツなど)の準備をする。(園の環境を活かし、幼児との交流活動を考えることもできる。)
- ・ルールを守りながら活動するよう伝える。
- ・こどもの気付きを引き出すような声掛けをする。



### ③感じる・考える

3段重ねのケーキができた。  
川の水は、だんだんしみ込んでなくなった。  
砂の団子はすぐに割れてしまうけど、土の団子はなかなか割れない。

- ・感じたことや気付いたことが自覚できるように、ワークシートに絵や文字で自由にかくように促す。
- ・たとえる(「～みたいなの」)、比べる、理由を言う(「どうしてかという～」)など、豊かな表現で伝えられるようにする。



### ④伝え合う・振り返る

みんなと力を合わせて、大きな山や川や海をつくって嬉しかったよ。  
砂や土は水と混ぜると、様子が変わるよ。  
砂と粘土みたいな土は、水のしみこみ方が違うね。  
今度は水遊びをしてみたいな。

- ・活動中の写真や動画の使用、板書の工夫により、自分と友達の考えを比較しながら、砂、土、水の特性や身近な自然を使った遊びの楽しさへの気付きが共有できるようにする。

### ④伝え合う・振り返る

山をつくって楽しかったよ。  
どうして泥団子はすぐに崩れたのかな？  
粘土みたいな土でつくるとうまくいくよ。  
もっとどろんこ遊びをしたいな。

- ・活動中の写真や動画の使用、板書により、「もう一度どろんこ遊びをしたい」という思いを全体で共有できるようにする。
- ・園で工夫して活動した経験を改めて思い出し、「次はもっと…」と意欲を高められるようにする。

### ③感じる・考える

前より、大きな山ができた。  
川がみんなとつながってびっくり。川の水がすぐなくなくなるのはどうしてかな。  
粘土みたいな土だとうまく泥団子ができた。

- ・どろんこ遊びのおもしろさや、自然の不思議さに気付くよう、ワークシートに感じたことや考えたことをかくように促す。
- ・たとえる、比べる、理由を言うなど、気付きの質が高まるような振り返りができるようにする。



### ②活動や体験をする

誰が一番カチカチの団子をつくれるかな？  
一緒に山や川をつくらうよ。

- ・探究心をもって、予想したり試したりしながら問題を解決していけるようにする。
- ・比べながら活動できるように、砂場の近くに土の場を準備しておく。
- ・共通の目的に向けて活動している様子を認める。
- ・どろんこ遊びの楽しさを実感できるように、できた喜びを共感する。

